

こどもの腫瘍（固形腫瘍）

医学研究所北野病院 小児外科

こどもの腫瘍性疾患

こどもでも稀ですが腫瘍が見つかることがあります。こどもは健康診断がないため、腫瘍による様々な症状が出てから発見される事が多いです。そのため、腫瘍がかなり大きくなって見つかることが珍しくありません。

腫瘍もその種類やできる場所により治療方針がすべて違います。



膵頭部の奇形腫

主なこどもの固形腫瘍とは

神経芽腫、腎腫瘍（腎芽腫）、肝芽腫、横紋筋肉腫、奇形腫など多彩なものがあります。それらは良性のものもあれば悪性のものもあります。

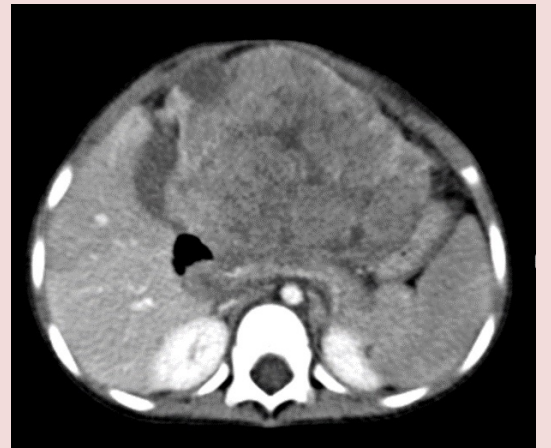


左腎芽腫

治療は？

それぞれの腫瘍の種類により、治療方法は変わってきます。まずは画像検査と血液検査で疾患を絞っていきます。

一般的に良性のものは手術により摘出することが多いです。悪性のものは、手術、内科的な治療（お薬や放射線など）を組み合わせる治療していくことが多いです。治療は小児科・小児外科などいろいろな科が協力しながら行っていきます。



肝芽腫

*** 腫瘍が疑われれば、早期に診断し治療に入る必要があります**